

事例) フリュー: 「ゆめちゃんといっしょ」

夏季限定のホラー仕様のプリ機で ホラー消費熱の高まる若者世代を引き付ける

プリントシール機大手のフリューが、23年6月～8月末までの間に展開したのが、“最恐プリ機”との異名を取る「ゆめちゃんといっしょ」だ。定番のプリ機「yumekoi (ユメコイ)」の夏季限定のホラーコースとして提供された。ホラーコースでは、交通事故に遭い、友人とプリントシールを撮ることがかなわなかったゆめちゃんを主人公として設定。BGMや照明、画面ビジュアルが恐怖バージョンに変わり、背筋が寒くなる感覚を味わいながら撮影ができる。撮影後、画像は顔の目元にくまや流血、頬に傷などを付ける加工が可能。画像に載せるスタンプは、血の手形や血で書いたような文字が選べる。元来目が大きくなるなど「盛れる」ことがプリ機の重要な要素であったが、近年は、盛る機能も落書き機能もない無加工のプリントシールが印刷される「韓国式プリ機」がヒットするなど、多様化している。そして、今回のホラープリ機で新境地を開いた。



ポイント

① ホラー要素×プリ機 で若者にヒット

若年層の間でホットになっている「ホラー消費」（アニメでは、ホラー要素が満載の『呪術廻戦』『チェンソーマン』がヒットしている）をプリ機という若年層に親しみのあるものに落とし込んだことでヒット

②複数人でも1人でも楽しめるサービス設計

ゆめちゃんという幽霊が映ってくれるため、意外と1人で撮る人も多く、「友達と一緒に撮る人」も「1人で楽しむ人」も両方を獲得